



| | |
|------|--------------------|
| 日付 | 令和 8 年 1 月 15 日（木） |
| 担当課 | 観光戦略課 |
| 電話番号 | 0742-34-5609 |

「帯解駅舎復原プロジェクト」ふるさと納税クラウドファンディング 目標額 100 万円を 6 日で達成！寄付総額 600 万円超に！ ～ネクストゴールを 1000 万円に設定～

奈良市では、歴史的価値を有する^{おびとけ}帯解駅舎の復原に向け、2025 年 12 月 15 日から、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」を運営する株式会社トラストバンクが提供する「ガバメントクラウドファンディング®（GCF®）」を活用し、全国から支援を募っています。

6 日目には、目標額 100 万円を上回り、寄付総額は 600 万円を超える支援が寄せられました。全国から多くの方々に本プロジェクトの趣旨にご賛同いただき、歴史的駅舎の保存と未来への継承に向けた取り組みが前進しています。



▲昭和 34 年の帯解駅舎（写真提供 廣瀬政彦氏）
兼復原イメージ

※大正 15 年の姿を留めています

●トピックス

- ・帯解駅舎復原プロジェクトで目標額 100 万円を達成、寄付総額 600 万円超に
2025 年 12 月 15 日から同年 2 月 28 日まで、ガバメントクラウドファンディング®を活用し全国から支援を募集。寄付金の使途は帯解駅舎復原整備工事にかかる費用の一部に。多くの賛同を得て目標額を大幅に上回る寄付が集まる。
- ・寄付金額 6,254,500 円 支援人数 427 人（2026 年 1 月 14 日 15:00 現在）
- ・ネクストゴールを 1,000 万円に設定し、引き続き支援を呼びかけ
- ・帯解駅舎復原プロジェクトを推進
明治期建設・大正期改築の奈良県内最古級の駅舎を復原。
- ・登録有形文化財に登録された木造駅舎を 1926 年（大正 15 年）当時の姿に復原
外観・内観の復原、耐震補強、劣化修理などを実施。
- ・地域住民の保存活動から始まった取り組み
2016 年の調査を契機に地域住民による保存機運が高まり、2021 年に市へ無償譲渡、2022 年に文化財登録。
- ・2026 年に大正期の改築から 100 年の節目を迎える
歴史を未来へ継承し、観光や交流の拠点として活用予定。

1. 帯解駅舎の歴史的価値

帯解駅は 1898 年（明治 31 年）、奈良鉄道の駅として開業しました。国有化された後、1926 年（大正 15 年）に改築され、現在は JR 万葉まほろば線（桜井線）の駅として地域住民や観光客を迎えています。

この駅舎は奈良県内でも最古級の存在であり、鉄道史や近代化の歩みを象徴する貴重な建物です。明治期の私鉄駅舎の姿を今に伝えるとともに、大正期以降に鉄道省が整備した標準的な地方駅舎の面影を残しており、鉄道発展の歴史を物語る建築として高い価値を有しています。

2022 年（令和 4 年）には登録有形文化財に登録され、文化財としての保存と活用が求められる存在となりました。



現在の帯解駅外観



現在の帯解駅待合室

2. プロジェクトの経緯

本プロジェクトのきっかけは、地域住民の保存への強い思いと文化財的価値の認識にあります。

2016 年（平成 28 年）：奈良市教育委員会と奈良県建築士会が歴史的建造物の調査を実施し、帯解駅舎が注目される。

2019 年（令和元年）：住民による保存活動が始まり、保存の機運が高まる。

2021 年（令和 3 年）：駅舎が JR 西日本から市へ無償譲渡される。

2022 年（令和 4 年）：登録有形文化財に登録。

2025 年（令和 7 年）：復原整備工事のための設計。解体調査。

復原整備工事資金調達の一環としてガバメントクラウドファンディング®を導入。

2026 年（令和 8 年）：復原整備工事予定。

2027 年（令和 9 年）春：施設利用開始予定。

3. 復原事業の内容

- ・木造駅舎らしい外観・内観の復原
(合板やアルミサッシ等で損なわれている外観や内観を木造駅舎らしい姿に復原)
- ・耐震補強工事による安全性の向上
- ・経年劣化やシロアリ被害箇所の修理

※復原の基準を大正15年としたのは、資料が豊富で忠実に再現でき、広く人々が集える空間として活用しやすいからです



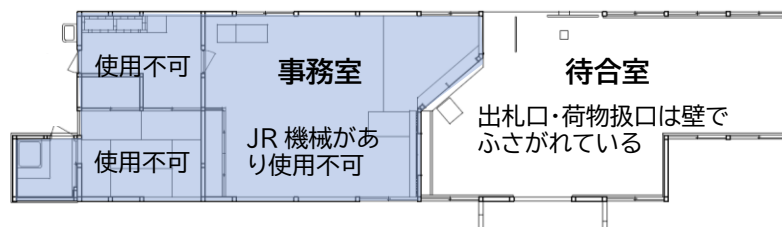
現在の待合室



待合室の復原イメージ

●現状

- ・内外とも新建材で改修されている
- ・耐震性能不足



観光・交流の拠点として整備

●整備イメージ

- ・内外の新建材を撤去し、木造駅舎らしく整備



4. 帯解地域の魅力

奈良市南部に位置する帯解地域は、古くより交通の要衝として栄えてきました。南北に延びる上街道と、西は郡山、東は大和高原に至る東西の旧街道が交わり、多くの人々が往来してきた歴史を有しています。

○歴史・文化

帯解寺：安産祈願の霊場として全国的に信仰を集める

広大寺池：『日本書紀』に登場する和珥池と伝わる

古墳群：五つ塚古墳群やベンシヨ塚古墳などが点在

○皇室・文学との関わり

圓照寺：大和三門跡の一つで皇室ゆかりの寺院

文学：三島由紀夫の小説『豊饒の海』の舞台モデル。三島は取材のため帯解を訪れており、帯解駅も登場

○農業と風景

古都華：奈良市のブランドいちごとして高評価

農村風景：ビニールハウスが並び、四季折々の景観が魅力

駅舎復原は、こうした地域資源と連携し、観光や交流の拠点としての役割を果たすことが期待されます。鉄道ファンや歴史愛好家にとっても魅力的な訪問先となり、地域の活性化につながります。



▲「おびとけの里博物館マップ」より <https://www.city.nara.lg.jp/uploaded/attachment/174384.pdf> (添付資料あり)



日本最古の安産祈願所 おびとけでら 帯解寺



大和三門跡のひとつ 圓照寺
拝観はできませんが、山門までの参道は趣があります



広大寺の龍の伝説が残る、「安産の寺」 龍象寺

5. 今後の展望

2026 年（令和 8 年）には復原整備工事を実施し、翌 2027 年（令和 9 年）春には施設利用を開始します。これにより、文化財としての公開と地域交流拠点としての活用が本格化する予定です。

工事完了後も帯解駅舎は現役の駅舎としての役割を継続しつつ、鉄道発展の歴史が感じられる場所として市民や来訪者に親しんでいただきたいと思います。さらに、観光案内や交流の場として地域の活性化に寄与し、地域資源と連携した新たな魅力を創出してみたいです。

復原された駅舎は、100 年の節目を契機に歴史を未来へ継承しながら、人と人をつなぐ拠点として新しい価値を生み出すことが期待されます。

6. 奈良市の旧駅舎を利用した施設

奈良市では、JR 奈良駅旧駅舎や京終駅観光案内所など、歴史的駅舎を活用した施設整備を進めてきました。今回の帯解駅舎の復原は、これらに続く取り組みとして、地域の歴史資源を保存しながら観光・交流の拠点として活かす意義を持つものです。

■奈良市総合観光案内所

近代化産業遺産に認定された JR 奈良駅旧駅舎（昭和 9 年建築）を活用した観光案内所で、観光案内やパンフレット提供、手荷物預かり等のサービスを備え、館内にはカフェも併設しています。



■奈良市京終駅観光案内所

JR 京終駅は平成 31 年 2 月に整備され、観光案内所「ハテナミドリ」として開所しました。旧駅務室にはカフェを併設。駅前には新たな観光トイレも整備されています。



7. その他

●奈良市ホームページ

帯解駅舎 復原プロジェクト～登録有形文化財の木造駅舎を 100 年前の姿に！

<https://www.city.nara.lg.jp/soshiki/108/253220.html>

●ふるさとチョイス GCF ホームページ

登録有形文化財の木造駅舎を 100 年前の姿に ー 帯解

駅舎復原プロジェクトー ふるさと納税のガバメン

トクラウドファンディングは「ふるさとチョイス」

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/5097>



登録有形文化財の木造駅舎を
100年前の姿に ー 帯解駅舎復原
プロジェクトー

📍 奈良県奈良市

6,254,500円

625.4%

目標: 1,000,000円